

昭和14年6月1日（木）

快晴、昨天候思はしからず。冬帽を冠り来たるも、快晴となりては冬帽は似つかぬ嫌いあり。物数料金調表を調べ上げんとしたるに、十日分より調査しあらず、当惑せり。野口氏に推定算出を求む。帰宅後材料携帯、調査す。六時四十分退出。既に子供は夕食を摂りつつあり。野口氏も同時刻退出。此日升屋旅館の電話二回借用、外地と外国の区別を質す。然るに通牒に明示されあり、良く読まずして人に質すことの失態を暴露す。然るに相手の奥畑君も答弁要領を得ず。彼も亦通牒を熟覧せぬ一人なりしなり。昨土産の菓子出局員に分配方、永江氏に委嘱す。ドロップ一袋。

昭和14年6月2日（金）

快晴、風強く塵芥濛々。調表作成未了。靴底修理方、局向かいの靴屋に注文す。此日出来上がる、3, 40と称す。午後調表発送したるも、物数報告と不一致判明。

昭和14年6月3日（土）

曇り、午後四時頃より晴れ、冷氣。満州国便覧訂正に着手。本明両日中津局員慰安会、近所の海岸に赴きし由。五時飯宅。赤坊両児と乳母車を挽き、安藤氏前通過す。飯るさ同氏母堂、余を見て尋ぬ、挨拶す。野口氏遅れて退出。余等飯りには既に働き居る姿を見る。風呂沸き、例により赤坊を入れる。巖カード揃えにて夕飯自然後る。

昭和14年6月4日（日）

午前五時二十分頃、余も風呂場に摩擦し居る間、二十分余雷鳴、驟雨沛然として至る。余風呂場より上がる頃よ

り霽れる。余九時出局。昨日の残務、満州便覧訂正、午後一時に及ぶ。未完成の儘、販宅。此日は永氏服務。販宅、浴衣に着換え、赤坊と和博等を連れ外出。巖既に販宅、カード整理に忙はしげなり。ビスケ20求め三百間に至れば、島原達三医士、レントゲン技手某も後より来たり、島原氏の紹介にて挨拶す。二十分間咄しビスケ坊ちゃん（5）に与ふ。夫人も臈（やが）て合流する由、即ち辞去す。信子睡り、智子独り起きて居る。販宅後も赤坊の守りす。三時智子乳を呑み間もなく睡る。信子は販途目覚む。ビスケ概ね平らぐ。

昭和14年6月5日（月）

多少曇り。午前中、靴修繕完了、3, 40支払ふ。午後一時半、満州便覧訂正を了す。新聞紙包みにて靴を持販りしを見て居た和博は、後刻、頻りに内裡品の何たるかを質す。

昭和14年6月6日（火）

曇り。五時販り、巖余の部屋にてカード揃えす。入浴後手伝ふ。愛子も来たり援助す。夕食済まし得ざればなり。食後髯剃りに角木に行く。廃業せしか、電燈も消滅し、扉にも施錠あり。堀端の風呂屋の理髪屋に至る、20銭支払ふ。

昭和14年6月7日（水）

曇り、四時三十分起床。五時三十五分出発。五時五十七分発車、途中降雨するも細雨。此の汽車の前部には栄町、豊後町、一つ松等の局長連、乗込み居れる由なるも余は之を知らず。下車の際も、余の方早く出で会場

に至り初めて承知す。降雨甚だしからざるも、相当濡る。会場に至る。幾度も道を質す。九時四十分頃開会、此の調子なら二番にて緩々（ゆるゆる）来ても、充分間に合ふものと思はれたり。逋信局長安田丈助閣下、公文陽規当課長牧野事務官、中尾書記以下五名、熊本貯金支局、簡保支局、放送局、大分別府両局長等多数出席。諮問案協議事項などを議題として、午後四時半頃まで論議す。余は協議事項答申の委員に指定さる。五時一旦宿屋不老園に引上げ、部長の改選を策す。鶴居重任に決す。午後六時半より、宿屋の和傘を借用、鳴海料亭に赴く。座席は会議席順、余の左は一つ松、右は？後町、老女中の嘗て中津に居住せし者あり、永野氏と話が合う。二次会を慫慂するを聞く。一方一つ松は二次会を発起し永野氏を挑（いど）む。永野氏余を引合いに策す。余密かに帰る後より、一つ松タクシーにて余を促すも、固辞して飯宿。間もなく永野氏も見ゆ。女の為め諛舌、膳部殆ど手を附けずと述懐、大笑いす。枇杷を頂く。風呂に入り、協議事項を案ず。二部屋十四名泊まる。

昭和14年6月8日（木）

曇り、八時過ぎ会場に至る。余の協議案文、余り取り入れられざりしと云ふよりは、既に出来上がり居りたればなり。猶抽象的の方が問題にならず、一般の気受けがよいようなり。二時閉会、会長及び副会長の選挙もあり、座談会もあり。午後二時三十七分の汽車にて帰る為には、座談会も中途引上げざるを得ず。下毛郡、日田郡方面は皆引上げたり。余も最後に引上げ、間に合わす。汽車賃1、12、往復2、24、宿料2、00、女中湯銭30、昨昼食30、飯局後菓子50、土産50。逋信局長は本朝中

津局巡視、耶馬溪樂山莊に一泊の由。鶴居耶馬溪等案内する由。余はさっさと局に行く。恰度耶馬溪行き発車の模様にて、其の列車の一行が乗込み居たるらし。此日霽れ模様。販宅の土産は桜餅、局にて一ヶ食べ、旨しと認め求めたるもの。

昭和14年6月9日（金）

夜半降雨、朝快晴の儘、推移。昨夜入浴。此日物数料金調表、物数報告と不一致として返却され、再調査の上提出す。岸田氏より福岡土地問題は、高圧電気は使用不許可を以て、遂に借入出来ぬこととなる旨、猶局長官舎として建設方を願出たるも、新築は出来ぬとのことに、遂に解消のこととなるとあり。色々尽力感謝に堪えず。北野純一氏官練体格口頭試問の為、上京の旨、五一郎氏より通知あり。

昭和14年6月10日（土）

晴れ。記名国債払渡しの件、事故通知あり。是永氏の相手は橋内某と云ふ如水村の人にて、大貞駅前局に持ってきたるも払渡さず。駅前に行けと云ふから来たと云ふ。大貞に行けば分かるかも知れぬとあり。即ち十時頃より線路伝いに大貞に至れば、漸く分かる。和田村の人、橋内政市と云ふ。漸く訪ふ。其の娘は中津の眼医者に通ひ居る者、正午頃帰宅すと云ふ。玄の間仏壇に詣で誦経す。主人は本年春死亡、祖父亦次いで死去。長男は出征、他は皆女子なりと云ふ。間もなく娘と云ふが販宅。水曜日余が出局の際、金は準備する由。色々咄して0時30分帰途に就く。1時10分帰局。憩う暇なく1時20分出発。五時帰宅。髯剃り7時30分発。八時星野医院行き、柳原

先生一人居らる。桑原、松尾、島井、栗原、島井氏店員、森氏等来会。午後11時30分閉会。午後12時寢床。蚊帳吊る、階下は未だ蚊帳吊らず。蚊遣り香のみにて間に合わせ居る如し。非常に温度上昇す。須藤氏六月二日発にて、久子縁談解消の通告あり。

昭和14年6月11日（日）

降りみ降らずみ梅雨模様、冷氣。北野純一氏より合格の電報あり、書面にて返事発送す。申又洗濯、時に降雨せしも風強く乾燥す。慰安会費一人九拾一錢づつ交付方、曩日通牒あり。秋に実行したき意向と聞く。此日島井氏方にて六奉行?願いの旨、柳原先生より通知ありしも行かざりし。桑原氏午前中来宅、光誌持参。二階に通して咄を聞く。森氏への1, 50、松尾氏に届けて頂くことに承諾御願ひす。森氏は之を会費に繰込まれたる由。

昭和14年6月12日（月）

午後より晴れなるも、驟雨の模様あり。澄子染物の講習に、隣家の娘さんと行く。怒ってばかり居るとか不平満々、折角ネクタイを持行きながら、途中より戻りぬ。昨夏蜜柑10、枇杷15、求め振舞ふ。久子に借用40錢返済。須藤氏に返事発送、猶岸田氏にも礼状を書く。

昭和14年6月13日（火）

朝来曇り、降雨模様。午後一時川端十七銀行日本銀行代理店に至り、乙種登録国債利札支払に関し説明を聞く。岸田氏に認めし手紙を小使いに托し、届けしむ。小使い室には食堂を兼ね、多数局員食事中。販るさ柳町市場に立寄り、鰯10求めたり。多少冷氣、冬帽連多し。剃刀研

ぐ。夕食後髯剃りす。

昭和14年6月14日（水）

快晴、暑気強し。和田村田尻、橋内政市名義乙種登録利札誤払いに関し、去る土曜日名義人を訪ね、且つ後の始末をやってやると約し、此日中津に戻る旨、打合せ済みの次第もあり、支障差繰り出発せねばならぬ為、定時発足列車は陽射し窓に位置することを回避する姿となる。局に至れば橋内娘さん待居る。鞆を投げ一緒に合同銀行を訪ふ。政市氏死去の旨を咄したるに、名義書換を要する旨、戸籍謄本と印鑑証明を要するとのことに、色々押し問答したるも埒明かず。継受の場合の書式を写して局に引上げ、娘さんと一層記名を除斥することにしたら如何と申しやり、明日回答のことになりて、娘さんは販る。三時木下主事来局、監督課長通過、迎えに来る。市内局は皆出迎ふこと故、誘ひに来たと云ふ。余は其の必要なしと行かざりし。窓口現金不突き合、六時を過ぐるも判明せず。六時半退局。此の朝久子ビスケ高級（鼠害を被りたるもの）持参、之を土産に巖の家に持込む。和博、目を着け余に質す。野口氏後れて販る。

昭和14年6月15日（木）

晴れ、五時巖集金行。八時前販宅、朝食。十時橋内氏来局、除斥申請書を提出、矢張り相続人に変更手続き後に非ざれば、受付難しと云ふ。此日も大いに議論す。娘さんは同銀行近所の耳鼻咽喉科病院にて、眼の治療を受け得たるものと云ふ。販るさ手数料何程かと尋ぬ。後刻砂糖一折持参、之を待合室に追ふて突返す。再び持来る。局前にて押し問答す。漸く納得還る。身体汗に塗る。ワ

イシャツ脱ぎ冷水摩拭す。其の儘シャツ一枚にて仕事す。隣家の伯母さん来たり、船町玉塚三郎なる者、門司軍事郵便課事務員として勤務し居るも、当地に転勤希望なる由。同人の長姉は安屋許作氏に、次姉は稗取締役に嫁し、両親死没し稗取締役の居住する家が、同人の家なる由。而して稗は住宅が余り大きいので、税金のみ多くかかり生活上困るから、他に移転を希望し居ると云ふ。右に依り木下氏に手紙にて依頼す。巖六時頃より出掛け、九時五十分還る。目下農繁、日中家に居らずと云ふ。赤坊及び両児に湯浴みさす。

昭和14年6月16日（金）

曇り、朝吹氏早朝来。此日は巖より先に出勤。中尾氏来翰、可なり自利的に弱らさる。ラジオ聴こえぬ、故障あるらし。保証書徴収。是永氏80円現金不足すとて頭を抱え居れり。野口氏も販ることを得ず。余六時半退局。野口氏七時販り、事故判明の旨報告す。振替計算相違100円剰る。差引20円剰る。同時に本局より電話、20円過超金不足電話あり。野口氏販り路、携行納付。赤子湯を遣い呉る。守谷さんエプロン姿にて窓口に見ゆ。

昭和14年6月17日（土）

快晴。昨下郷局通信手田崎氏指導員として来局、一時より四時迄指導し行かる。茶菓子40永江氏に求めしむ。此の時の咄により、衡器運送に対する式紙なき為、未だ保管し置く旨申聞けしに、謄写版にて印刷したるもの余部あるから明日送ると約せられ、此日交付あり。誠に念入りに出来て居るに敬服せり。北野五一郎氏来局。此日午後四時黒田村に販宅の由にて、純一氏合格の件咄あり。

両親に宜敷くと申し出でたり。純一氏の兄は高門（私立）学校卒、東京自動車製作所に居ると。此日風呂沸く。セメンにて補修せし為、少時使用不適にてありし由。

昭和14年6月18日（日）

晴れ、八時十分頃出局。既に市内外無集配局多数、従事員臨局。部長氏も居らる。十時過ぎまで見学、余は全部開放す。十時半一同豊後町局に行く。野口氏一行に加わる。余は文書受発簿の注意に基づき、関連番号記載する処あり。十一時四十分修繕を要するラジオを（是永氏駅まで持参し呉る）携行。三時三十分飯宅、バスを利用す。武藤秀夫来宅あり。夕飯を喫して七時半飯途に着く。久子五時飯宅。浜口富ちゃん退院、飯塚に飯れる由。久子道子を携え外出す。余水浴、十時ラジオを聴き莫産一枚の上に睡る。夜半冷ゆ。此日市内過半休業。

昭和14年6月19日（月）

晴れ、午後より多少曇る、風強し。朝ジャムパン頂く。午後よりラジオを持ち新柳町より電車、駅前にて乗換え西町下車。修理を依頼（明夕刻出来上がると云ふ）。電車券十区求め、県庁前にて乗車せんとせしも、松屋前まで徒歩。各デパート共休業。松屋前にて乗車。新柳町市場を見て飯宅。夜、茶、菰蕪（こんにゃく）其の他、五月飯頂く。此日ラジオ持行く為、髯剃る。夜水浴、毛布、布団等を蒲団袋に納め処理せり。風可なり強く、冷氣加わる。十時ラジオを聴きつつ睡る。

昭和14年6月20日（火）

多少曇り、薄靄あり。午前中、中尾氏返翰認む。東北振



興電力株式会社、総会委任状発送。午後三時半、簗島局に年金受取る。道子等十時頃より外出、四時を過ぐるも販らず。天候は愈々湿潤を呈し、冷氣を呈す。気圧の配置は梅雨型になりしやに認めらる。昨夜胡瓜（きゅうり）揉みを多量に食したる為、今朝二時下痢の兆しあり下廁。二時間床に入り五時水浴。澄子早く起きる。午後五時澄子等販宅。東中洲大阪やにて何か食べて来たりし由。新柳町市場より魚のテンプラ等、余の為に求め来る。六時夕食を済ましてラジオ修理完了の筈に付き、受取りに出掛く。降雨一旦門口に出て戻り、和傘を持参、住吉神社前より東に入り、だめ道をして東中洲に至り、電車通りを西町に向かう。修繕料55銭、スピーカー断線せりと云ふ。余、料金は年内不要の旨に付き持参せる由咄し、先方でも諒解し呉る。販りは電車にて博多駅に出て、九軌市場より棕櫚タワシ10銭求め、電車及びバスにて販宅。降雨漸く繁し、下駄泥に塗る。此（二十一日）の朝、猫余の傍らに眠り居たるものと見え、余の起きるや驚愕の余り蚊帳の中に侵入し、周章狼狽の極、小便を着物と蚊帳に漏らす。

昭和14年6月21日（水）

猫の問題は此の朝の出来事なり。一昨夜押入開放し置きたるに、猫押入にて寝て居たる為め、昨夜は押入を締め置きたる為、蚊帳の上に寝たる如し。此日号外、仙頭附近に敵前上陸、仙頭完全占領の旨公報あり。澄子束子（たわし）買ひ来る20。曩に求め来たりし束子は小さくして役に立たぬ為、特に買はせたるもの。曇天。

昭和14年6月22日（木）

曇り時々晴れ。向上誌等を徹底的に見る。久子五時頃販り、栗おこしを一個持参、余に呉る。明日まで蔵へ置く。光友誌郵送あり。昨エナメルをブリキ缶に塗る。錆が出て容易に腐蝕するを防止の目的に出でたるなり。新聞を見て居る間、睡きこと甚だし。腰掛けたる儘、眠る。

昭和14年6月23日（金）

朝の間曇り。風位西に東に、十一時頃より降雨。午後六時半頃より西風に変わり、沛然として驟雨来。まこと誌三種認可となる。封皮に明記、内容には未だし。蓋し発行後認可承認ありしものと被認。風強くして家を揺るがす。夕方より大降りとなる。満蒙国境ノムハン附近に於ける外蒙軍の不法越境事件は、去る五月十一日より始まり、戦車装甲自動車等機械化部隊を有する敵の大部隊は、哈拉哈河（こうろこうがわ）国境を越えて続々と満領内に侵入し、不法射撃を続行すると共に、二十日頃よりソ聯空軍が越境飛翔し来たり、満領内を偵察するなど挑戦的態度を濃厚にするに至りしため、隠忍自重の我が方も遂に膺懲（ようちょう）の断手たる鉄槌を下すに至りしもの。陸の荒鷲は連日に亘る猛攻と地上部隊の果敢なる奮闘に依り、敵は戦闘機爆撃機など実に五十九機の損害と、地上では三百の遺棄死体を残して、三十一日夕刻全く哈拉哈河対岸外蒙領内に撤退するに至ったが、外蒙軍は依然、高射砲、野山砲戦車、装甲自動車等多数を有する大部隊を対岸に集結、何時不法行為に出ぬとも限らぬ不穏な形勢を示して居た。ソ聯空軍は去る十七日頃より、十数機の編隊を以て再び越境飛翔し来たり、非武装地帯に対し連日爆撃機上掃射を行うに至り、中には悪辣にも日の

丸のマークを附けて、巧みに我が荒鷲の目を欺かんとしたソ聯機もあった。二十二日にはソ聯戦闘機約百五十機の大編隊が、越境襲撃の挙に出でんとしたため、我が陸の荒鷲も遂に出動、十八機を以て迎撃、敵四十九機を撃墜せしめたもので、不法爆撃の範囲は満蒙国境甘珠爾廟よりハロンアルシャンにかけ、百四十キロの広範囲に亘り、ノムハンを中心に満蒙国境一帯は、俄然緊張の色を呈して来た。因みに今回の戦闘で、我が機は森本大尉機以下四機は還って来ぬと発表された。

昭和14年6月24日（土）

曇り、久子疲れたとて出勤せず。九時頃まで寝て居る。午後より外出、夜に至りて遅く眠る。此の日北部九州一帯は蒸し風呂、最高温度、午後三時に二十七度四分を記録し、去る十六日の三十一度二分に及ばぬが、丸でうだるような暑さ。是れは不連続線が北九州一帯に掩いかぶさった上に、東寄りの南風が温かい湿気を連れて来たため、中央气象台福岡支台では、まだ不連続線が近海をうろうろして居るので、当分こんな曇天が続き、蒸し暑いでしょうと語っている。夕方柳原先生より速達にて手紙来。本日本局より二十一日附け第三種郵便物認可あり。拾円料金持参、印章携帯出局せよとあり。明日は日曜故、明後日出頭すべしと云ふ。時々驟雨あり。二郎より手紙、写真多数、結婚届に調印、後藤寺に廻付し呉れとあり。二郎の手紙は午前中到着のもの。午後十時寝床。

昭和14年6月25日（日）

朝驟雨一過。道子国防婦人の群れに召集、住吉社に集合。余は髯剃り九時頃より城西橋下車、柳原先生かかり

行く。其の前例の公衆電話に、郵便局に電話。三種主任此日休暇、明日にして呉れと云ふ。十数分間先生宅に咄し販る。市場よりサバ17、一尾求めたり。降雨、少し逢着、十一時少し過ぎ着。皇太后陛下55御誕辰、秩父宮殿下37を御迎え遊ばさる。剃刀研ぎ、夕方髻再び剃る。澄子に剃刀あてて貰ふ。

昭和14年6月26日（月）

澄子より袋物チューインガムの土産物。野口氏にもガム、ナフキン等の土産品頒与方依頼受け持参。小倉より英霊二等車に納まり、遺族多数も接続したる三等車に乗込む。一際憐れを覚ゆ。小倉及び中津に国防婦人会、愛国婦人会、学校生徒等の送迎あり。局に至れば中尾氏来翰。野口氏長靴持参。朝の間模様悪き為、持来たりしと見ゆ。販りは幾分持直し、遂に降らず。此の夕、入浴。巖は既に子供と済まし、余は赤子を入れ夕食す。新聞四銭。

昭和14年6月27日（火）

晴れ、風涼し。余の後ろ口硝子扉を開放したるに、襯衣一枚にては涼し過ぐる程なり。給料分配。昨日来、仕事山積み。巖夜釣りに出掛たるも、二時間計りにて獲物なく販宅。鰻を釣る目的なりし如し。林権助男、此日薨去。

昭和14年6月28日（水）

曇り勝ち、涼風吹き来る。前日の如し。八月三四両日、別府にて改正年金講習会出席方通牒あり。永江氏に出席を命ず。販ると直ぐ入浴、流汗多し。夕食時扇ぎ呉るを気の毒に思ひ、又此の夜、腹加減悪し。寝巻を汚す。夕方より降雨。

昭和14年6月29日（木）

曇り、昨夜来の雨にて道路泥濘。長靴、和傘、帽子を冠らず。中尾氏に返事發送。販りには道路も乾燥せり。終日曇り、風涼し。

昭和14年6月30日（金）

曇り、気温涼し。永江氏切手請求。午後一時二十分、日の出町出身軍人戦没英霊、原隊より来著。局前には、扇城女学校及び中学校女生徒整列奉迎、花輪造花、旌旗幢幡（せいきとうはん）翩翻（へんほん）として、棒持ち奉仕者多数先駆、次いで霊柩遺族会葬者無慮数百名。頃日、陽光耀き初む。此の日風呂沸き、巖鰻釣り夕方出掛け、三尾程捕獲。